

2017年3月28日～30日 神戸大学附属中等教育学校

1. 震災・復興とリスクマネジメント (○)
2. 国際都市神戸と世界の文化 ()
3. 提言：国際紛争・対立から平和・協調へ ()
4. グローバルサイエンスと拠点都市神戸 (○)
5. その他 ()

[概要]

日本地理学会春季学術大会で発表しました（筑波大学） & 東京大学柏キャンパス訪問

筑波大学で開催された日本地理学会春季学術大会（<http://www.ajg.or.jp/meeting/2017spring.html>）において、7回目となる高校生ポスターセッションが開催され、本校含め計64件のポスターが掲示されました。

- 015 これからの防災教育の在り方-双方向的な防災教育は生徒の防災教育を高めることができるのか-
- 021 神戸市における冷気流と広域陸風が相互に及ぼす影響の解析
- 022 兵庫県神戸市における冬季気温分布
- 023 東日本大震災におけるダークツーリズムの有用性-大川小学校を事例に-
- 024 神戸市の小中学生におけるよりよい減災教育とは-減災アクションカードゲーム神戸版の開発から考える-
- 026 兵庫県神戸市における山麓冷気流の実態解明
- 031 どのように東日本大震災を伝える？-被災者が求める震災遺構の残し方とは-
- 032 ボランティアは本当に必要なのか～あり方と共通認識について～
- 061 局地風が都市の気温に及ぼす影響～六甲おろしを事例として～

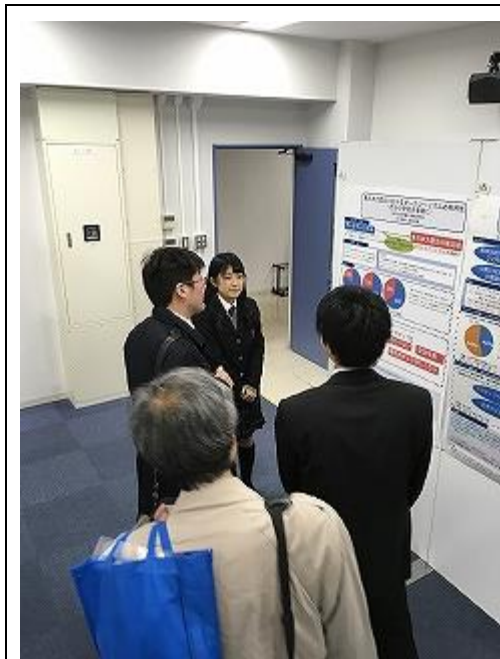
活動の様子



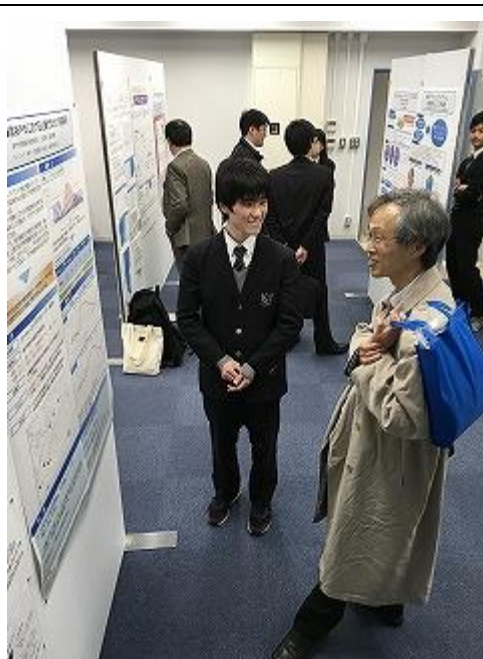
024 神戸市の小中学生におけるよりよい減災教育とは-減災アクションカードゲーム神戸版の開発から考える-

015 これからの防災教育の在り方-双方向的な防災教育は生徒の防災教育を高めることができるのか-
(人文地理学が専門の本校藤田裕嗣校長に説明しています)

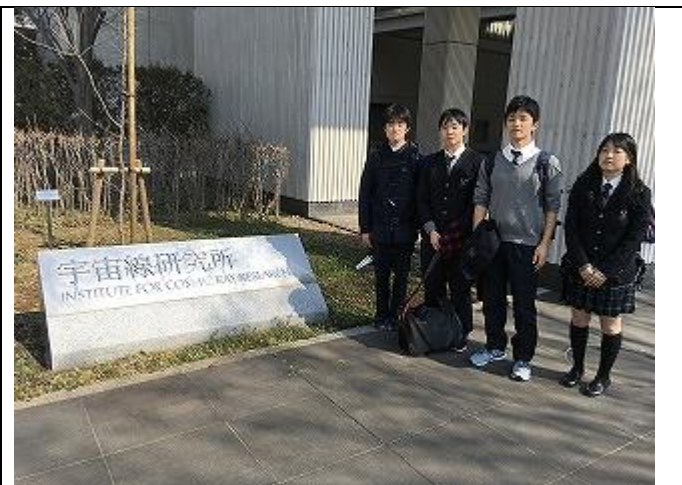
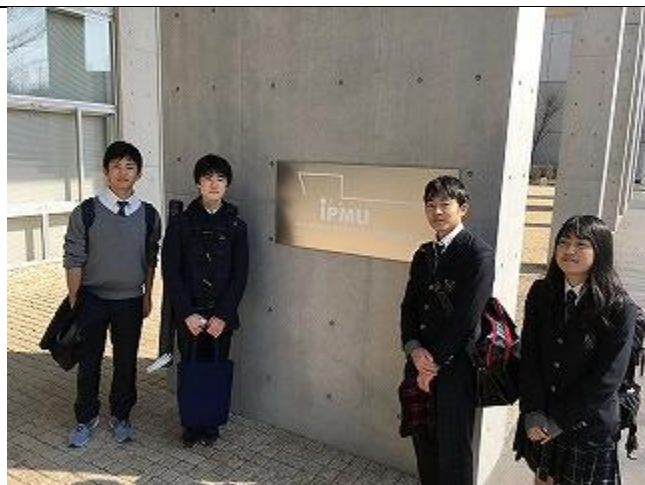
021 神戸市における冷気流と広域陸風が相互に及ぼす影響の解析



023 東日本大震災におけるダークツーリズムの有用性-大川小学校を事例に-

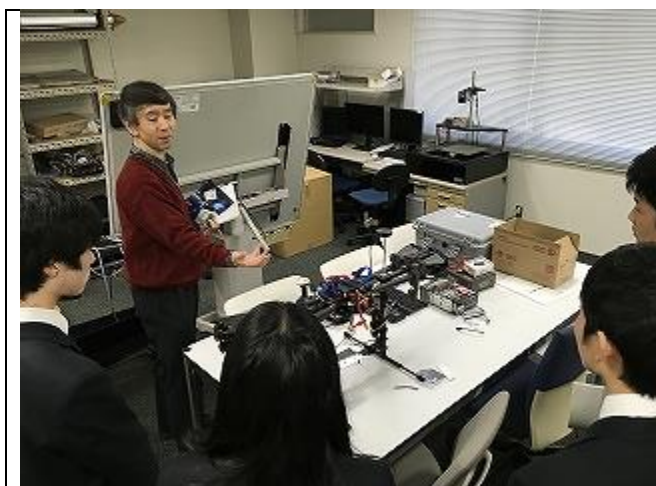


026 兵庫県神戸市における山麓冷気流の実態解明



東京大学柏キャンパス
カブリ数物連携宇宙研究機構 (Kavli Institute for the Physics and Mathematics of the Universe、Kavli IPMU)

東京大学柏キャンパス
宇宙線研究所



東京大学柏キャンパス
空間情報科学研究センター
の小口高センター長から地理情報科学・空間情報科学について教えていただきました



JAXA 筑波宇宙センターも見学しました

参加生徒の所感
(5年生男子)

私は今回の地理学会を通じて大きく3つのことを得ました。

1つ目は、自分の研究に不足しているものが具体的にわかったことです。ポスター発表では、気象学を専門に研究している方から多くのアドバイスを頂くことができました。平均したデータを中心に結論に繋げていましたが、平均したデータだけでは必ずしも普遍的であると言えないことが多かったので、データをさらに詳細にみて、分析する必要があるとわかりました。また、気象学を専門にしていない方からも、データの分析方法、グラフのより良い見せ方を教えて頂くことができました。

2つ目は、同年代の高校生から刺激をもらえたことです。私は昨年の春季地理学会にも参加させて頂いたのですが、今回の高校生ポスターは前回よりもかなりレベルが上がっているように感じました。特に、目の付け所の興味深さと自ら実践する行動力に感心しました。他校の生徒が自分たちと同じく研究に励んでいることを知り、もっと自分も努力しないといけないと思いました。

3つ目は、ポスターで「伝える」ことの難しさを痛感したことです。今回は前回までよりもポスターのデザイン、内容を慎重に検討して作り上げました。その際に、研究の内容を正確に伝えるためには情報量が必要であるが、一方でデザインの面では文字ばかりだと見栄えが悪くなってしまい、その両者のつり合いをどうするのが一番いいのか、とても悩みました。実際に、他校のポスターや、大学研究者のポスターを見てみると、それぞれの個性が多種多様であったので、一概に良いポスターがどんなものなのか決めることは難しいと感じました。

今回は2度目の地理学会参加となりました。前は4年生のKPの内容で参加しましたが、今回は卒業論文の内容だったので、少しは内容的にもまとまった状態で出来るかなと思っていました。しかし、実際はまだ欠陥したところが多々あるとわかりました。この様に学会に参加し様々な経験ができたことをとても嬉しく思っています。今回の学びは、今後のさらなるデータの解析と最終提出に向けた仕上げに活かしていきたいと思えます。

(5年生女子)

今回、初めて日本地理学会に参加しました。様々な人に私が行った研究やポスターについてご指摘いただいたことや他の参加者のポスターを見て、ポスターの書き方、見せ方やこれから研究をどうやって発展させればいいのか学ぶことができました。

研究を行った本人が分かっていることや当たり前のように思っていることをポスターに書かないと、他の人には伝わらないということを身にしみて感じました。これまでポスターは見やすいものが一番良いと思っていましたが、他の参加者のポスターを見て学会のポスターは見やすさだけではなく研究の全体像がつかめるものでないと伝わらないということがわかりました。

個人の研究としてはこれから研究を発展させるためには、地域ごとの比較を行えば面白いのではないかというアドバイスもいただきました。一方で、私の研究のゴールは何かと聞かれて私自身答えることができませんでした。確かに、今改めて論文を見ると結果からわかる結論は述べていても考察が不十分で、自分自身も曖昧にしていた部分がありました。また、私が提案する防災教育のあり方は誰に対してなのか明確でないため研究自体がボヤッとしていることも課題だと思います。ポスターから研究の全体像が掴みにくいのも、まず軸となる研究(論文)がボヤけてしまっていることが原因であったと感じています。一次論文提出時はもう書くことはないと思っていましたが、より中身のある研究になるように今回のアドバイスを生かしたいです。

また、研究発表もいくつか見させていただいた中で、聞きやすい・聞きたいと思わせる発表をされている方がいました。やはり、発表するときには大切なのは発表の構成だけでなく発表する声の大きさやスライドの見やすさであると改めて感じました。

地理学会に参加したことで学校内の発表だけでは気づくことができなかった研究の課題点を見つめ直すことが出来ました。一方で、改めて研究の難しさも感じました。自分の研究は、調べ学習との違いは出せたもののまだまだ研究としては甘いところがあります。

またもう一度自分の研究を見直していきたい思いました。